

令和 3 年 6 月 30 日現在

機関番号：41310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12139

研究課題名(和文) 看護実践者のコンピテンシーと大学教員に求められるコンピテンシーの関連性の究明

研究課題名(英文) Research on the relevance between competencies of Nursing Practitioners and ones required for educators at nursing colleges or universities

研究代表者

立石 和子 (Tateishi, Kazuko)

仙台赤門短期大学・看護学科・教授

研究者番号：80325472

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：看護系大学では、教員不足や教育の質の確保が課題となっている。「看護基礎教育の高等化による看護師のコンピテンシーの獲得・要求能力の変化」の継続課題として、専門職業人としての看護師に要求されているコンピテンシーの解明のため以下のインタビュー調査を行った。

専門看護師・認定看護師より、看護系教員に求められている能力分析した、結果、場面に対応した判断能力が必要である。医療関連の他職種「看護師・看護教員へ求めるコンピテンシー」より、自らが学ぼうとすることでキャリアプランニング可能となる。大学教員への調査より、看護実践者としてどのような姿勢で経験をつんできたが重要であることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

専門看護師・認定看護師のインタビューより、看護系教員に求められている能力の部分を中心に分析した結果、その場面に対応した判断能力が必要であることがわかった。看護師のキャリアプランニングとしては、認定看護師・専門看護師、大学院進学など、自らが学ぼうとすることで可能となる。訪問看護師との研究で、看護師および看護教員に求められている能力の抽出を深め、看護基礎教育において、早期より在宅医療も含めた看護の在り方を教育する必要がある。

大学教員になるまでの臨地経験で修得されたコンピテンシー、すなわち看護実践者としてどのような姿勢で経験をつんできたが重要であることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：In nursing colleges or universities, the shortage of educators and ensuring the quality of education have become at issue. As an ongoing research of "changes in the acquisition of competencies and required abilities of nurses due to the advancement of basic nursing education", we conducted the following interviews to clarify the competencies required for nurses as professionals: 1. We analyzed the abilities required for educators of nursing faculty based on the interview results of certified nurse specialist and certified nurses. As the result, the ability to judge according the situation is required. 2. The survey on "competencies for nurses and other medical professionals" suggests that self-motivated learning makes career planning possible, 3. The survey of teaching staffs at universities revealed that their own behavior and experience as nurse practitioners are weighty and important.

研究分野：看護キャリア教育

キーワード：看護教育学 高等教育論 コンピテンシー 大学教員 多職種連携 キャリア教育

1. 研究開始当初の背景

申請者は、これまで様々な視点から看護師に要求されるコンピテンシーについて探究してきた。

看護師版コンピテンシー項目の作成(3領域:知識・技術・能力, 37項目)
CHEERS 研究, (Higher Education and Graduate Employment in Europe)および REFLEX 研究, (The Flexible Professional in the Knowledge Society, 研究代表: Van der Velden) で考案されたコンピテンシー項目(いずれも日本代表: 吉本圭一)に関わる研究会に参加し利用承諾を得て看護版を作成した。

看護師の縦断的アンケート調査

看護系大学在学学生から大学卒業後 10 年までの看護師に対し縦断的にアンケート調査を実施した。

[分析 1] 経験とともに、看護師の獲得能力の総合的自己評価は上昇していた。

[分析 2] REFLEX の欧州データと日本で実施したデータより、日欧の大卒看護師教育課程の比較をおこなった。結果、日本の教育課程では、【学問的な理論や概念枠組み】、【講義】が重要視されていた。次にコンピテンシーについては、欧州に比べ日本では獲得能力が全て低く、反対に必要な能力は日本が高い結果となった。そして、大学教育の活用状況は、【職場で学習遂行】、【将来のキャリアを展望】、【人格の発達】で日本が有意に低い結果となった($p < 0.001$)。(Tateishi, 2013, Nurse Education Today)¹⁾

キャリア形成とともに育まれるコンピテンシー(初期キャリアと看護師の専門性)

日本の看護基礎教育課程に不足している部分である「キャリア教育」、特にキャリアプランニングに注目し認定看護師・専門看護師インタビュー調査を実施した。分析結果、看護専門職業人として、キャリアアップする中で【理論的に考える力】など知識と技術を統合するためのコンピテンシーが育まれていた。また、キャリアを積む過程で大学教員が実践者が戸惑いながら選択していることがわかった。

課題

看護系大学は、1989 年 12 校が 2016 年には 250 校となり約 25 年の間に 20 倍以上に増え、それに伴い教員不足が問題となっている。文部科学省は、「看護系大学教員養成機能強化事業」へ取り組んでいる²⁾。吉本³⁾は、2013 年の短期大学・専門学校の教員及び組織に教育者に求められる能力の研究を実施した結果、教員の専門に関わる論理的知識、学生指導の技量などに高い能力が求められていた。このような社会的背景のから、最終段階として、看護師を育成する大学教員に求められるコンピテンシーを追及することは、これまでの研究結果を踏まえ、看護師養成における大学教育・短期大学・専門学校をも含む看護教育の充実につながる基礎的研究を行うことが可能となり、さらには看護師の「キャリア教育」につなげたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究においては、看護系大学教員に焦点をあてる。まず、基礎教育課程における臨地実習時の経験、大学院における経験、臨床(病院・施設)における経験などこれまでの個々の教員が経験したことが、どのようにコンピテンシー形成につながっているかを明らかにする。これにより、看護系大学教員のキャリア形成とコンピテンシーの関係性が明確化できると考える。

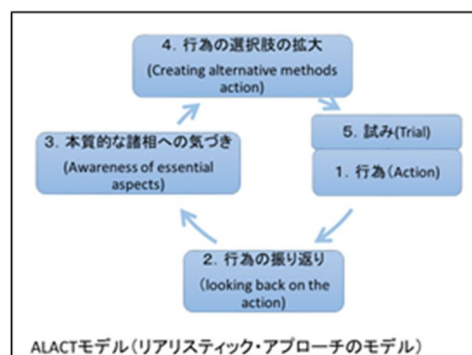
しかし、現時点では看護基礎教育、初期キャリアの時点で育まれているコンピテンシーは汎用可能なものが培われた結果なのか明確になっていない。このような能力(コンピテンシー)がどこでどのように育まれているか明確化することで、キャリア教育に活用可能な教育システムの構築が可能となるであろう。また、日欧の看護師比較で日本の基礎教育課程に不足していた部分「将来のキャリア展望」であったといった、これまでの申請者らの研究結果から明らかとなった点を踏まえつつキャリア教育を行うことが、今後、キャリアプランニングのひとつとしての看護教員への道を選択するときの一助が可能となるであろう。

本研究の目的は、「看護師の初期キャリアにおける獲得能力」、「看護師の獲得したコンピテンシーとキャリア形成の関連性」、「専門職業人として、大学から職業への移行にかかわる課題」に焦点をあてた新スタイルの職業型教育と学術型教育の体系的なシステムを構築である。

3. 研究の方法

これまでの研究「看護師に要求されるコンピテンシー項目」の結果まとめるとともに、それをふまえた、教育システムの構築を行うために、以下の 2 点から研究計画した。

(1) 看護系大学教員に求められているコンピテンシー抽出のためのインタビュー調査: 学生時代の臨地実習経験、臨床経験、大学院での経験などをふまえてインタビュー



ー調査を実施した。

(2) 学位と資格の枠組み作成：臨床経験とコンピテンシーの関係性に対しリアリスティック・アプローチ⁴⁾を用いて分析し、大学教員に求められるコンピテンシーとキャリアの関係を明らかにした。

倫理的配慮：研究参加者へ研究の趣旨、研究参加の自由意思、匿名性、結果の公表を口頭・書面にて説明し、書面で同意を得た。本研究は研究者らが所属する大学（必要時、施設）の倫理審査委員会の承認を経て実施した。

4. 研究成果

1) 看護実践能力促進のためのキャリアプランニング

認定看護師を目指す動機に焦点をあてて

看護実践能力促進のためのキャリア教育の一環として、認定看護師を取得する過程においてどのような動機づけがあったのかを明らかにし、これからの看護師のキャリア教育への示唆とすることを目的とした。対象は、認定看護師7名(男性3名含む)であり、調査方法は、インタビュー調査とし半構造化面接を行った。インタビュー内容は、看護師になったきっかけ、看護師としての経験、認定看護師課程に進学するきっかけや課程での学び、認定看護師としての活動で印象に残った場面等を想起してもらい、自由に語ってもらった。分析方法は、逐次録を作成しCross(1981:p124-p131)⁵⁾反応連鎖モデルの動機づけ理論を参考として、認定看護師が経験した内容とその意味を読み取り質的帰納的に分析した。

クロスの「反応連鎖モデル」は、「自己評価」と、これまでの教育経験と周りの人の態度によって形成される「教育的態度」によって、動機づけ理論で見られる「目標の重要性」と教育機会への「参加が目標をかなえるという期待」が形作られる。そこに「人生の過渡期」への適応ニーズが生じると、潜在的な学習願望が顕在化するきっかけとなりうる。そして学習への動機づけられると、「障害」に直面することになるが、「情報」を修得するなどしてどう乗り越えて参加に至るのかについては、第一に動機が強ければ、中庸(考え方・行動などに偏りがなく中正であるさま)な障害なら克服する。第二に正確な情報が動機付けられたものを適正な機会に結びつけるといった程度の言及にとどまっている、ということである⁴⁾。

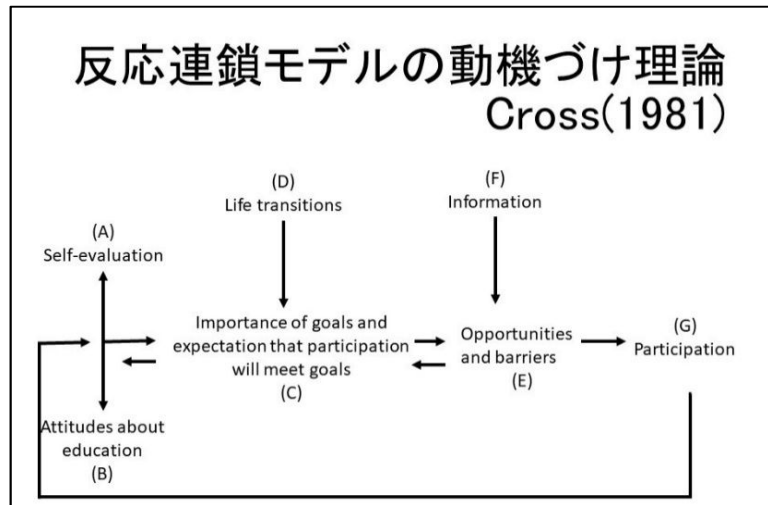


図1 反応連鎖モデルの動機づけ理論

(図1)

結果：看護師経験年数は、平均14年(9~21年)、認定看護師取得後としては、1年~16年、認定看護師の種別は、集中ケア3名、手術看護2名、感染管理、小児救急看護各1名であった。

看護基礎教育課程に進んだ動機は、看護師という職業への興味・関心を持った時に、教師や家族といった周囲からの勧めなどにより進学先が決定されていた。ところが、看護基礎教育課程を卒業した時点では、対象者のうち5名は何らかの形でその次の段階のキャリアを意識しており、認定看護師課程への進学動機は、「自己成長」への期待と「タイミング」であった。認定看護師課程を選択した動機は、教育期間が半年であること、看護実践を続けたい、現場志向などの理由から認定看護師課程を選択していた。そして、認定看護師としての学びは、その後の活動において、「学習意欲の向上」、「主体的な活動」、「対人関係性への礎」となって応用されていた。認定看護師になった現在の状況は、認定看護師になるまでは、ともすると受動的であった日々の看護業務に関しても、認定看護師課程での学びを他者へ還元することを主体とし、専門性を生かした学習会の運営など、それぞれの持てる力を発揮していた。そして、さらなる次のキャリアを目指している者もいた。

考察：リカレント教育としての認定看護師課程に進学したきっかけは、「参加が目標をかなえるという期待」であった。そしてそこに「人生の過渡期」としての学修ニーズが生じると、潜在的な学習意欲が顕在化することとなり、学習はさらに動機づけられていた。その一方で、学習が動機づけられると、同時にリカレント教育に対する様々な「阻害」に直面することとなるが、その際、「他者との関わり」の中からの「情報」の取得、自分を高めたいという「成長志向性」、自分自身で主体的に対応しようとする「主体的対応力」などによって「阻害」に応じて柔軟に対応していた。(図2)

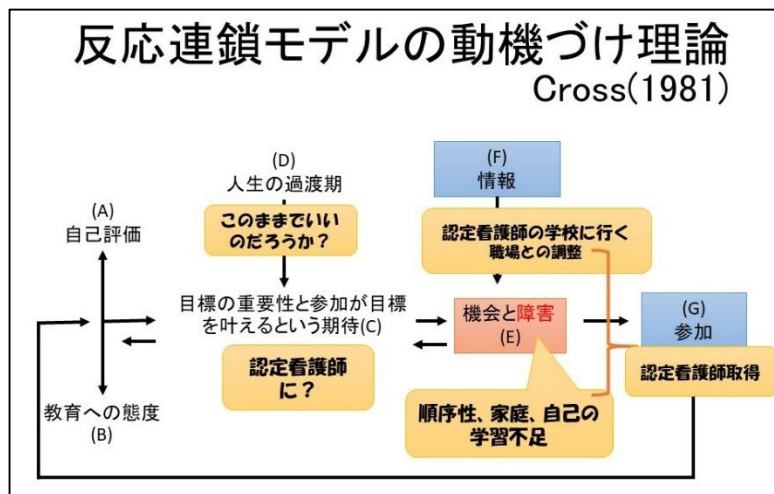


図2 反応連鎖モデルの動機づけ理論
認定看護師の場合

2) 看護管理者の求める看護教員像

看護管理者（サードレベル修了者4名）にグループインタビューを行った。インタビュー方法は、ファシリテーターとして、研究者が参加し自由に語っていただいた。質的機能的に分析した。結果：看護管理者が、求める教員像は、「看護師とともにケアに参加してもらえる」、「学生が活き活きと看護活動に参加してもらえる」、「臨床現場の看護師に最新の知識を提供できる」、学生への教育としては、「看護基礎教育においてキャリア教育が必要」、「自分の持っている力を活かす方法」、「他者へ敬意を払える」など日常常識などであった。看護管理者は、看護教員へ教員としての立場より、同じ看護師像を抱いていることがわかった。

3) 多職種の医療関係者が求めている看護師像（看護教員含む）

ナーシングカフェ方式で「看護の力ってなに？を語ろう」を実施した。参加者は、一般募集にて集まった、薬剤師、ケアマネージャー、看護師、介護士、鍼灸師（専門学校教員）、短期大学教員など10名の参加者であった。90分間（45分2部制）で、2グループに分かれ病院に入院した際は、どのような看護師がよいか。どのような技術、知識を持っている看護師の看護をもとめるか。参加者が求める看護教員像について自由に語った。今回、看護師には、相手の話が聴ける看護師であった。看護教員に求めるものは、種々の知識を提供できる人であった。このように、自由に語り合える機会は、看護教員にとっても良い機会であり、今後とも継続することが必要である。（その後、コロナ禍のため、中止となった。）

4) 訪問看護師などとの共同研究

訪問看護ステーションの看護師と共同研究を遂行することで、看護教員の活動の場を模索した。病院における看護研究は、看護部（看護管理者など）の教育計画のもとで実施され、どちらかという、研究している看護師は受け身であった。そのため、教員としてかかわる際は、看護研究の重要性、面白さなどを伝えるところからスタートしていた。しかし、訪問看護ステーションの一部は、看護師が起業した施設であり、経営、日常業務、看護と多様な業務を担っているため、日々の疑問はあっても研究まで結びつけることは難しい現状があった。その際に、看護教員が、定期的に訪問看護ステーションに訪問することで、看護研究へ結びつけることが可能となることがわかった。さらに、訪問看護ステーションにおいても自由に研究が可能となるように、中心的な看護ステーションに倫理審査ができるシステムを構築した。成果は、勇美財団研究助成金（一般）「訪問看護ステーションにおける終末期の療養場所の意思決定（ACP：Advance Care Planning）の現状調査と展開の検討」（研究代表：佐々木 喜代子）として実施することができた。

さらに、伝統医療（鍼灸師）など分野との共同研究の実施は、医療全体の研究に関するボトムアップにつながる事が分かった。

5) 看護師のキャリアに関わる教育システム

具体的には、看護師の初期キャリアで獲得したコンピテンシーとキャリア形成の関連性に焦点をあてた職業型教育と学術型教育の体系的なシステムを構築である。

本研究において、看護実践者と看護教員の関連性に焦点をあてた。

多くの看護教員は、臨地において看護師などの経験があることから看護実践者の一人である。今回、分析までには至らなかったが、これまでの経験が、教育活動へつながっていることはわかっている。今後は、どのような経験が、看護教員の教育活動へつながっている

るか分析する予定である。

看護教員の役割として、看護教育活動を病院とのコラボレーションは多く見受けられる。今後は、地域との連携も視野に入れた活動を行うことが必要である。

【参考文献】

- 1) Kazuko Tateishi, Taro Matsubayashi, Keiichi Yoshimoto, Takanobu Sakemi: An investigation of the Basic Education of Japanese Nurses: Comparison of Competency with European Nurses, Nurse Education Today 33(5) p.552-557 (2013)
- 2) 文部科学省ホームページ、
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/iryoujinzai/1339117.htm
- 3) 高等教育における教員と教育組織に関する調査 概要 (2012) (代表: 吉本圭一)
- 4) F. コルトハーヘン編著 (武田信子監訳) 教師教育学 臨床と実践を繋ぐリアスティック・アプローチ, 学分社, 2010
- 5) Cross, K.P., 1981, Adults as Learners: Increasing Participation and Facilitating Learning, San Francisco p124-p131

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 藤田藍津子・玄番千恵巳・今留忍・田中恵美子	4. 巻 60
2. 論文標題 発達障害児を育てる母親の心的体験と経験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京家政大学紀要	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋甲枝, 目野郁子, 新谷恭明, 前田由紀子, 一期崎直美, 笹月桃子, 溝部昌子, 吉原悦子, 財津倫子, 中原智美	4. 巻 24
2. 論文標題 看護学科における初年次教育の取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西南女学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤 正子, 立石 和子, 齋藤 麻子, 藤田 藍津子	4. 巻 41
2. 論文標題 災害復興のレジリエンス 東日本大震災と平成28年熊本地震における被災者支援の比較研究（温故知新プロジェクト）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京家政大学生生活科学研究所研究報告	6. 最初と最後の頁 75-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田由紀子、立石和子、谷岸悦子、松林太郎	4. 巻 22
2. 論文標題 精神科における認定看護師の資格取得過程と認定後の経験	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西南女学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井美紀代、梶原江美、岩本テルヨ、目野郁子、大嶋満須美、布花原明子、穴田和子、前田由紀子	4. 巻 22
2. 論文標題 教育理念と三つの方針に基づく教育課程改正の検討過程と課題 - 地域包括ケアを見据えたカリキュラム -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西南女学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐竹 正延, 石母田 由美子, 立石 和子, 井上 由紀子, 大沼 由香, 菊地 真, 熊谷 英樹, 鈴木 慈子, 宮崎 智子, 富士原 秀, 佐藤 喜根子	4. 巻 2(2)
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症流行時における、仙台赤門短期大学の対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 伝統医療看護連携研究	6. 最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34511/jstn.2.2_20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤 正子, 及川 敦子, 比良 孝子, 阿部 美智枝, 佐々木 喜代子, 三澤 寿美, 立石 和子	4. 巻 2(2)
2. 論文標題 災害対策 “訪問看護の知恵袋”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 伝統医療看護連携研究	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34511/jstn.2.2_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地 真, 青野 都, 石川 恵子, 岡田 康平, 金野 明子, 大沼 由香, 立石 和子, 佐藤 喜根子	4. 巻 1
2. 論文標題 指圧および経穴マッサージが体温と身体柔軟性に及ぼす効果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 伝統医療看護連携研究	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34511/jstn.1.1_57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大沼 由香, 平尾 由美子, 鈴木 慈子, 熊谷 英樹, 立石 和子, 佐藤 喜根子	4. 巻 1
2. 論文標題 「赤門まちかど保健室」開設1年間の成果と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 伝統医療看護連携研究	6. 最初と最後の頁 91-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34511/jstn.1.1.1_91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤 正子, 藤田 藍津子, 齋藤 麻子, 立石 和子	4. 巻 1
2. 論文標題 災害復興のレジリエンス～東日本大震災と平成28年熊本地震における被災者支援の実態～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 伝統医療看護連携研究	6. 最初と最後の頁 30-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34511/jstn.1.1.1_30	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立石和子	4. 巻 65 (13)
2. 論文標題 なぜ?を知る ビジュアル基礎看護技術 第23回: 創傷管理技術 創傷を覆う局所管理方法 (解説)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護学生	6. 最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立石和子	4. 巻 65 (14)
2. 論文標題 なぜ?を知る ビジュアル基礎看護技術 第23回: 救命救急処置 (解説)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護学生	6. 最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斎藤正子、立石和子、佐々木喜代子	4. 巻 22(6)
2. 論文標題 福祉の現場から 「訪問看護の知恵袋」 訪問看護の災害対策のガイドライン作成を目指して(解説)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 54-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件(うち招待講演 1件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 前田由紀子、立石和子、松林太郎、後藤有希、安藤愛
2. 発表標題 The study on career development of certified nurse specialists in psychiatric mental health nursing in Japan
3. 学会等名 ICN Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤有希、安藤愛、前田由紀子
2. 発表標題 The study on career development of certified nurse specialists in psychiatric mental health nursing in Japan
3. 学会等名 ICN Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田由紀子
2. 発表標題 The Experience of Prompting the Growth of New Graduate Nurses in Psychiatric Hospital
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田藍津子・玄番千恵巳・今留忍・田中恵美子
2. 発表標題 子育て支援施設を利用する
3. 学会等名 日本看護科学学会第39回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田藍津子・福井郁子
2. 発表標題 放課後等デイサービスにおける看護師の役割と課題
3. 学会等名 第 50 回日本看護学会 ヘルスプロモーション 学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立石和子、大沼 由香、岡田 康平、菊地 真、木村 涼子、金野 明子、青野 都、井上 美恵子、石川 恵子、平尾 由美子
2. 発表標題 指圧およびマッサージ手技の効果の検討 基礎看護技術教育への導入の可能性を探る
3. 学会等名 日本看護学教育学会誌
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金野明子、大沼 由香、岡田 康平、菊地 真、小野 八千代、平尾 由美子、石母田 由美子、木村 涼子、鈴木 慈子、立石 和子
2. 発表標題 指圧およびマッサージ手技の効果の検討 自律神経の変化からの検討
3. 学会等名 日本看護科学学会第39回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立石和子、齋藤正子、阿部美智恵、比良孝子、及川敦子、佐々木喜代子、田原美香
2. 発表標題 Factual Investigation on Intention of Visiting Nursing
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平尾由美子、大沼由香、立石和子、石母田由美子、井上由紀子、小野八千代、熊谷英樹、金野明子、高橋育子、佐藤喜根子
2. 発表標題 看護系大学教員による「まちかど保健室」の解説
3. 学会等名 日本在宅ケア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 比良孝子、齋藤正子、阿部美智枝、及川敦子、々木喜代子、田原美香、立石和子
2. 発表標題 「災害時の訪問看護の知恵袋」の有用性の検討
3. 学会等名 宮城看護学会13回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立石和子、佐々木喜代子、及川敦子、比良孝子、阿部美智枝、大沼由香、齋藤正子、田原美香
2. 発表標題 訪問看護・介護予防訪問看護の効力検証 - 訪問看護師の介入により介護度が維持・軽減した症例分析 - .
3. 学会等名 日本在宅ケア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平尾由美子、大沼由香、鈴木慈子、立石和子、熊谷英樹、高橋育子、金野明子、岡田恭平、木村涼子、佐藤喜根子
2. 発表標題 「赤門まちかど保健室」1年間の成長と課題
3. 学会等名 日本伝統医療看護連携学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安藤愛、後藤有紀、前田由紀子
2. 発表標題 精神科病棟看護師の精神疾患患者へのストレスに焦点をあてた看護の特徴に関する文献研究
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田藍津子
2. 発表標題 放課後等デイサービスの看護師実態調査 ケアの特徴と課題
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤正子、佐々木喜代子、比良良子、及川敦子、阿部美知枝、立石和子、三澤寿美、田原美香
2. 発表標題 教訓を活かした災害時における訪問看護の知恵袋
3. 学会等名 第49回日本看護学会 在宅看護
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木喜代子、比良良子、齋藤正子、及川敦子、阿部美知枝、立石和子、三澤寿美、田原美香
2. 発表標題 訪問看護ステーションにおける終末期の療養場所の意思決定（ACP）を考える
3. 学会等名 第49回日本看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西久保秀子、立石和子、太田美帆、有澤舞、村上希
2. 発表標題 .病を持ちながら生活する成人患者に対する看護学生の認識 模擬患者として活動するA氏の語りから
3. 学会等名 第28回日本看護学教育学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木喜代子、比良良子、及川敦子、阿部美知枝、齋藤正子、立石和子、三澤寿美、田原美香
2. 発表標題 利用者の転機から考える訪問看護師の関わり
3. 学会等名 第22回東北緩和医療研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大沼由香、立石和子、木村涼子、小野八千代、高橋育子、佐藤喜根子
2. 発表標題 看護学生のコミュニケーション手段の特徴 新設看護短大入学時の自己・他者評価より
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田藍津子
2. 発表標題 放課後等デイサービスにおける現状と課題に関する文献検討
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立石和子、前田由紀子、谷岸悦子、松林太郎
2. 発表標題 看護実践能力促進のためのキャリアプランニング 認定看護師を目指す動機に焦点をあてて
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前田由紀子、立石和子、谷岸悦子、松林太郎
2. 発表標題 精神科認定看護師の資格取得過程とワーク・モチベーションの関連
3. 学会等名 日本医学看護学教育学会学術学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立石和子、松林太郎、吉本圭一、酒見隆信
2. 発表標題 An Investigation of the Basic Education of Japanese Registered Nurses -Comparison of Competency with Europe-
3. 学会等名 Nursing Science & Practice 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 有澤 舞, 立石 和子, 太田 美帆, 村上 希
2. 発表標題 教員手作り術後シミュレーションスーツが果たした周術期臨地実習における看護学生への効果の検討
3. 学会等名 日本看護学教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村上 希, 立石 和子, 有澤 舞, 太田 美帆
2. 発表標題 臨地実習における場面の教材化への試み 成人看護学実習指導での困惑場面のリフレクションより
3. 学会等名 日本看護学教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森岡薫 鈴木慈子 藤原美加 立石和子
2. 発表標題 看護学生のモチベーションを高める工夫 コロナ禍の在宅での臨地実習においてー
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会、東京都 (Web開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 立石和子、鈴木慈子、金野明子、石川恵子、熊谷英樹
2. 発表標題 成人看護学急性期看護実習におけるペア実習導入による効果の検討
3. 学会等名 日本看護学教育学会 第30回学術集会, 岩手 (Web開催)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小原真理子、酒井明子監修、立石和子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 303
3. 書名 災害看護 心得ておきたい基本的な知識	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームページ: https://nurse-ed.sakura.ne.jp/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前田 由紀子 (Maeda Yukiko) (10412769)	西南女学院大学・保健福祉学部・教授 (37119)	
研究分担者	有澤 舞 (Arisawa Mai) (50719135)	東京家政大学・看護学部・助教 (32647)	平成29年度削除
研究分担者	藤田 藍津子 (Fjita Athuko) (70721851)	東京家政大学・看護学部・講師 (32647)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------